

ぐんま昆虫の森 みらいプロジェクト

基本構想



ぐんま昆虫の森
GUNMA INSECT WORLD



目次

01	昆虫の森を取り巻く状況	P3-5
02	昆虫の森の課題	P6
03	施設の新基本理念	P7-8
04	リニューアールコンセプト・基本方針	P9-15

01 昆虫の森を取り巻く状況

基本情報

開園20周年を迎えた、日本一の広さを持つ「体験型教育施設」

平成17年8月に開園した群馬県立ぐんま昆虫の森は、「昆虫をはじめとした生き物との直接のふれあい」を第一に、「体験型教育施設」として20年にわたり運営を続けてきました。敷地面積は昆虫館として日本最大の約45haを誇り、そのほとんどを自然のままの昆虫たちが息づく雑木林が占めています。年間来場者数は毎年約10万人で、子ども連れの家族や学校利用者など、数多くの来園者にお越しいただいています。家族の交流の場所、子どもたちの学びの場所として、ながく県民の皆様にも愛されながら運営してきました。

約45ha
日本最大※
昆虫館

※2026年3月現在



約45haもの
広大な敷地のほとんどを、
自然のままの昆虫たちが息づく
雑木林が占める

01 昆虫の森を取り巻く状況

基本情報

昆虫の危機は地球環境の危機

昆虫の減少とは、単純に「虫がいなくなっちゃって寂しいね」という感傷的な話ではすまされない、「生物多様性の劣化」という大きな環境問題です。昆虫の森には、地球環境を支える昆虫類の存在意義についての情報発信と、昆虫やそれらが生息する環境にいつでもふれあうことができる貴重な場の提供という、重要な使命と課題があります。

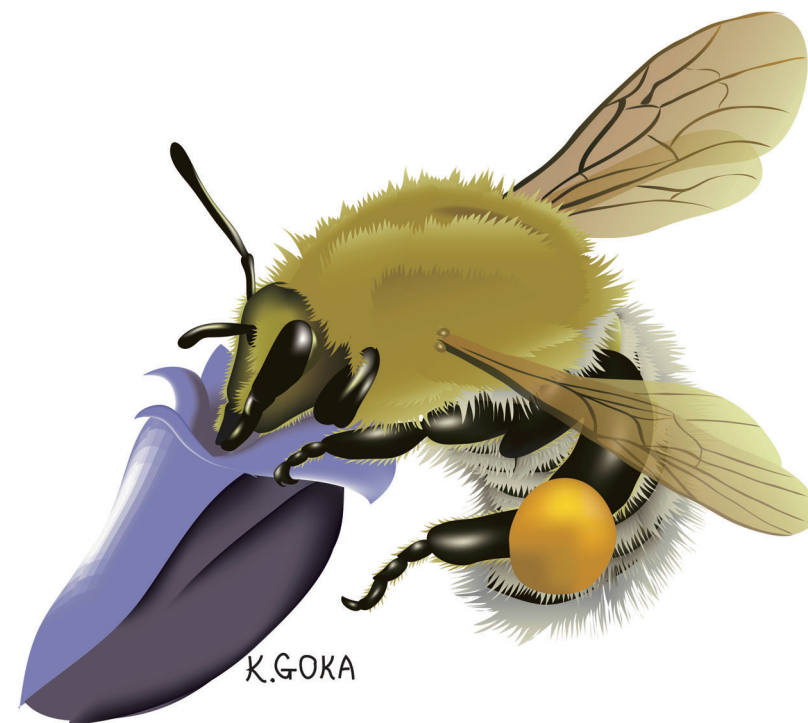
Q

なぜ昆虫の森が大切なのか？

A

昆虫がいなくなると
人類も地球に住めなくなり、
共生していく必要があるからです。

昆虫類の減少は深刻な地球環境問題の一つとされ、例えば国際的な生物多様性評価の会議「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)」においても、ハナバチ類などの、いわゆる花粉媒介昆虫の著しい減少が世界的に進行していることが報告されています。花粉媒介昆虫の減少は、植物類の繁殖に悪影響をもたらし、生態系の基盤である植生が崩壊してしまう恐れがあります。さらに、人間の食料である農作物の生産性にも大きな打撃をもたらすことになります。そのほか、昆虫類は全ての種が生態系の物質循環において極めて重要な役割を果たしており、昆虫類の減少は、地球全体の生態系機能の劣化につながり、最終的に人間社会の持続性を危うくする重大な問題です。



※ミヤママルハナバチCG：作・五箇公一氏（検討委員）

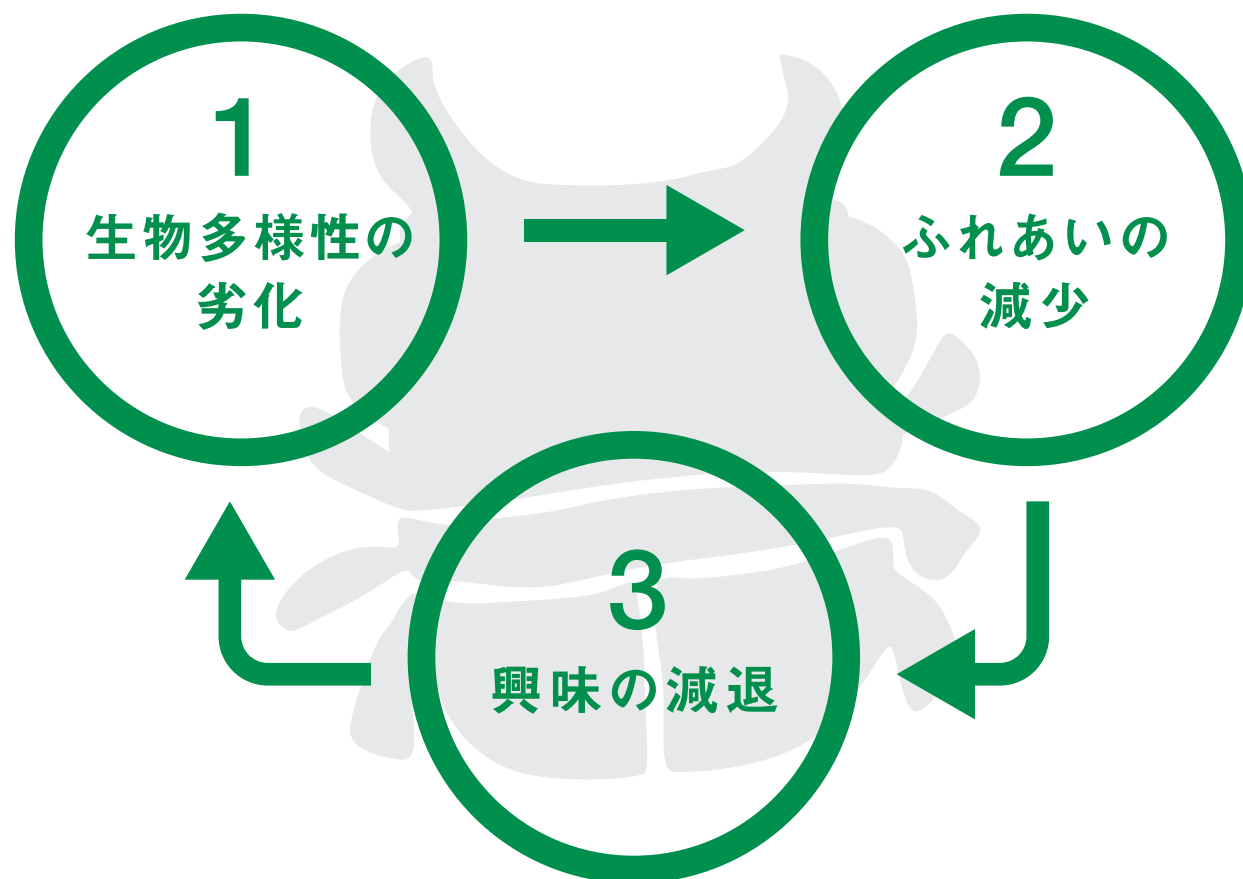
01 昆虫の森を取り巻く状況

社会的背景

人々の「昆虫離れ」が進行している

昆虫の森を取り巻く自然・社会環境は、開園から20年を経て大きく変化しています。

特に、いまの子どもたちだけでなく、その両親の世代でさえ、「昆虫にふれたことがない」「自然のなかで遊んだことがない」方も多いのではないのでしょうか。人間の経済活動による影響を受け、「1. 昆虫の生物多様性が劣化していること」「2. 生きた昆虫とふれあう機会が減ったこと」「3. 昆虫への興味が減退していること」などが複合して、現在の状況を生み出していると考えられます。



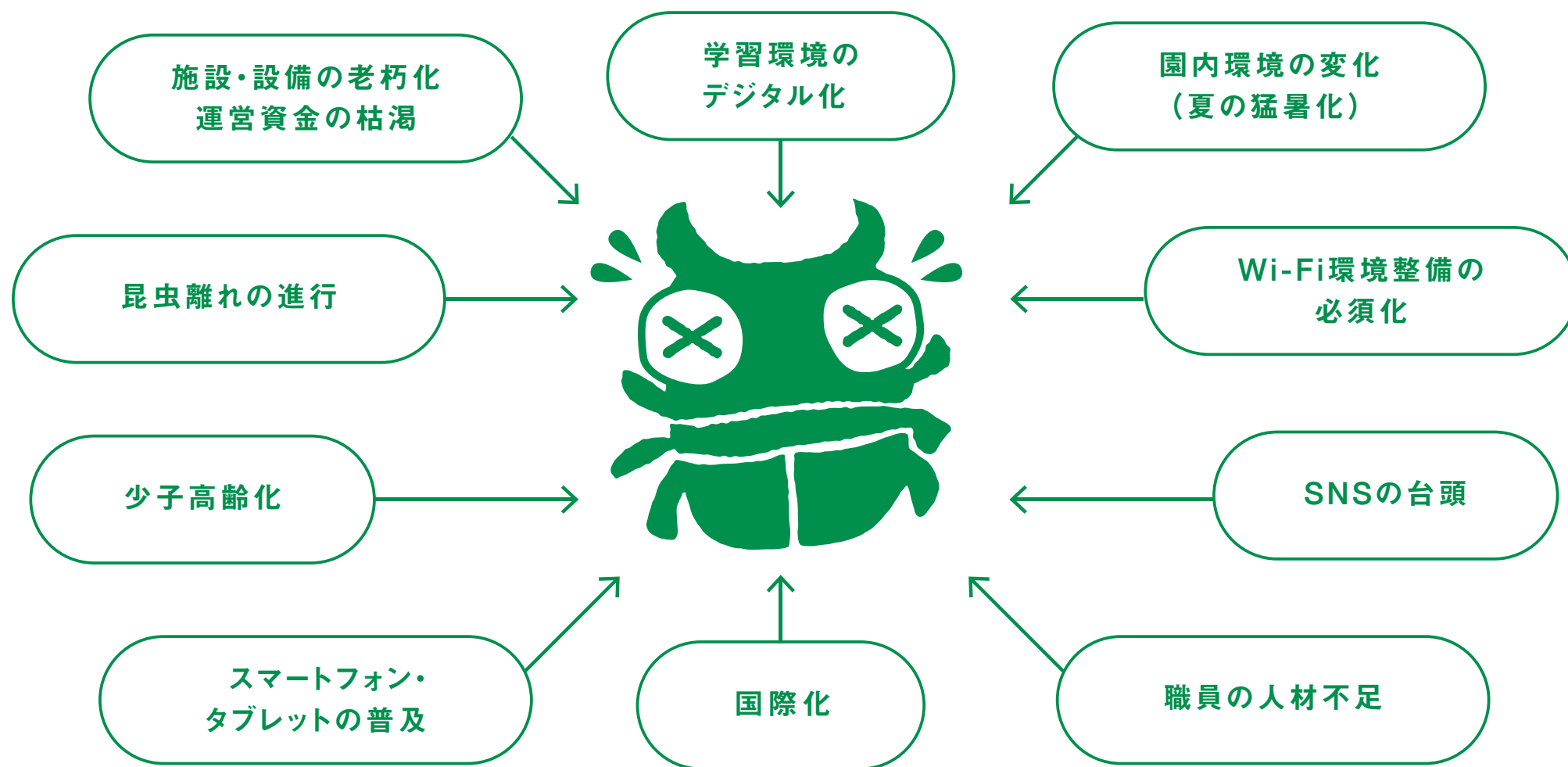
時代の変化に伴う
「昆虫離れ」の進行と
負のサイクル

02 昆虫の森の課題

施設の課題

開園から20年。新たな課題の発生

開園から20年が経過した昆虫の森では、施設・設備の老朽化、雑木林の荒廃といったハード面だけでなく、「社会・自然環境」の変化、「学習環境」の変化に対応しきれていないなど、ソフト面でも新たな課題が発生しています。



03 施設の新基本理念

新基本理念

基本理念をベースにアップデート

ぐんま昆虫の森の根底にある、「いきもの(昆虫)とのふれあい」「体験型学習施設としてのあり方」は、今の時代にこそ色あせず重要視されるものであり、継承することとし、昨今の社会情勢※をもとに、ネイチャーポジティブを新たに導入。

新基本理念 1

里山の自然の中で動植物とじかに
「ふれあう」ことで、自然に学び、
生命に共感する心を育む

現行の基本理念を継承する

上記の通り

新基本理念 2

実体験を通じて人・自然・生きものの
関わりに理解を深め、自然に配慮した
生活・行動がとれる人を育む

現行の基本理念を継承する

上記の通り

新基本理念 3

園内の生物多様性を保全し、
群馬県のネイチャーポジティブの実現
に寄与する

現行の基本理念をアップデート

自然と人間の生活が調和した、
自然と人にやさしい群馬の
創造に寄与する

※【参考】検討委員意見 ●矢島園長の考えに基づく現行の基本理念も、とてもいい内容で、今の時代にも色あせないものだと思う。 ●敢えて加えるなら、③の理念に「ネイチャーポジティブ」の概念を加えたらどうか。

新基本理念

新基本理念のキャッチコピーも設定

新基本理念を身近なものとして理解していただくため、わかりやすいキャッチコピーも設定。

Feel!

心を育むふれあい

新基本理念

1

里山の自然の中で動植物とじかに
「ふれあう」ことで、自然に学び、
生命に共感する心を育む

Try!

“やってみたい”ができる体験

新基本理念

2

実体験を通じて人・自然・生きものの
関わりに理解を深め、自然に配慮した
生活・行動がとれる人を育む

Act!

未来へつなげる活動

新基本理念

3

園内の生物多様性を保全し、
群馬県のネイチャーポジティブの実現
に寄与する

リニューアルコンセプト

来園者（特に子どもたち）に、共有しやすい
リニューアルコンセプトを設定

自然とふれあう実体験が、
環境活動へつながり、想いが地域へ広がる



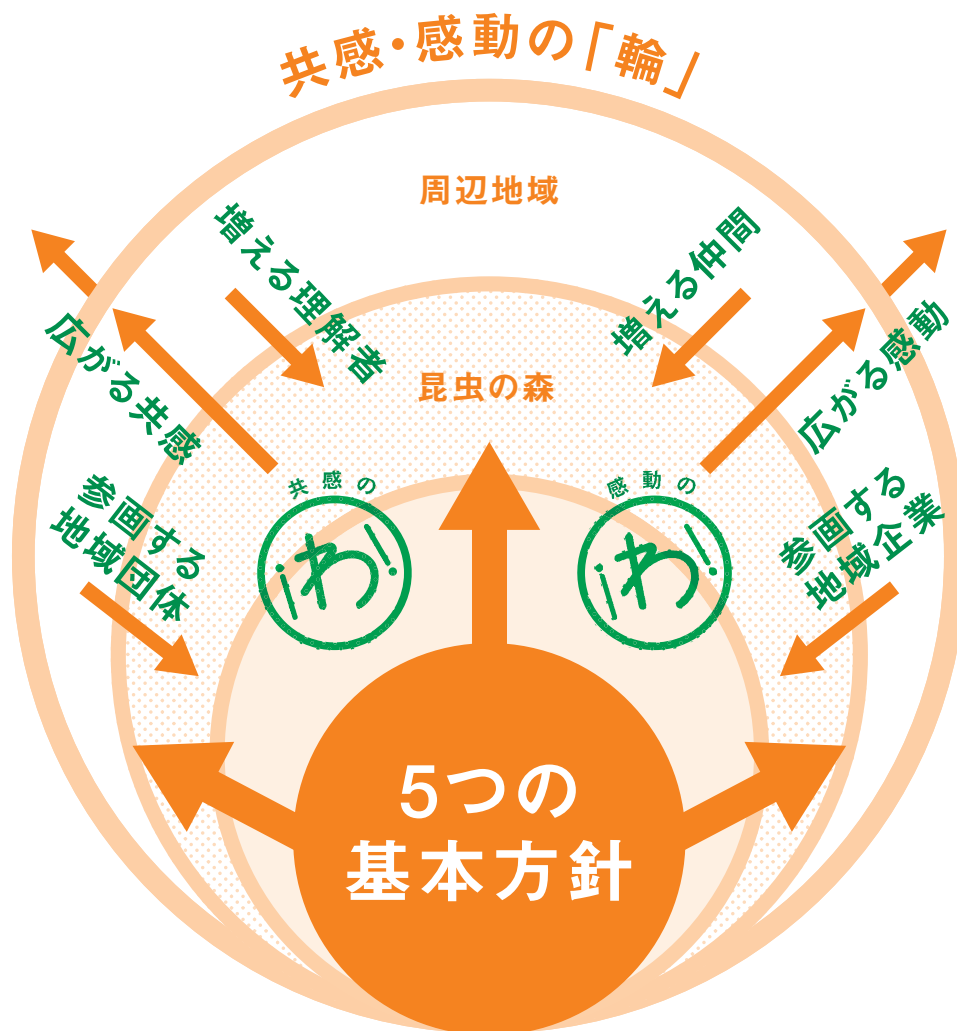
広げよう、
感動の「わ!」、
共感の「輪」

※コンセプトの実現にあたっては、必要人材・収益性をあわせて検討する

04 リニューアルコンセプト・基本方針

リニューアルのための「5つの基本方針」

検討委員会での議論等を参考に、
リニューアルのための「5つの基本方針」を設定



5つの基本方針

方針 01

「学びをひろげる」
施設へ

生きた昆虫や自然とふれあえる特徴を生かした取組や、デジタル化が進んだ昨今の学習環境への対応を強化します

方針 02

「ユーザーファースト」
施設へ

ちいさな子どもや体力に自信のない高齢者や障害を持つ人、外国人などにも配慮し、酷暑対策にも対応します

方針 03

「つながる」
施設へ

国内外の昆虫館博物館、民間企業等と連携し、更なる魅力を発信します

方針 04

「昆虫・自然にやさしい」
施設へ

生物多様性・自然環境の保全に配慮します

方針 05

「昆虫好き以外の人も楽しめる」施設へ

昆虫が苦手な方、大人、高齢者でも楽しめる施設にします

方針

01



生きた昆虫や自然とふれあえる特徴を生かした取組や、デジタル化が進んだ昨今の学習環境への対応を強化します

生きた昆虫と
ふれあえる
体験の提供



時代に合わせた
デジタル学習の
有効活用

例示[※]

- 生きた昆虫たちとのふれあいの充実
- 海外産の珍しい昆虫展示
- タブレット学習に向けた動画を活用した昆虫解説
- 里山文化や道具等に関する詳しい展示
- 夏休みの宿題との連携企画（蝶の放蝶・夜間の蛍やクワガタ等の観察）

※今後、実現性を検討いたします

方針

02



ちいさな子どもや体力に自信のない高齢者や障害を持つ人、外国人などにも配慮し、酷暑対策にも対応します



外国人に
対応した
多言語対応



皆に優しい
バリアフリーな
環境整備

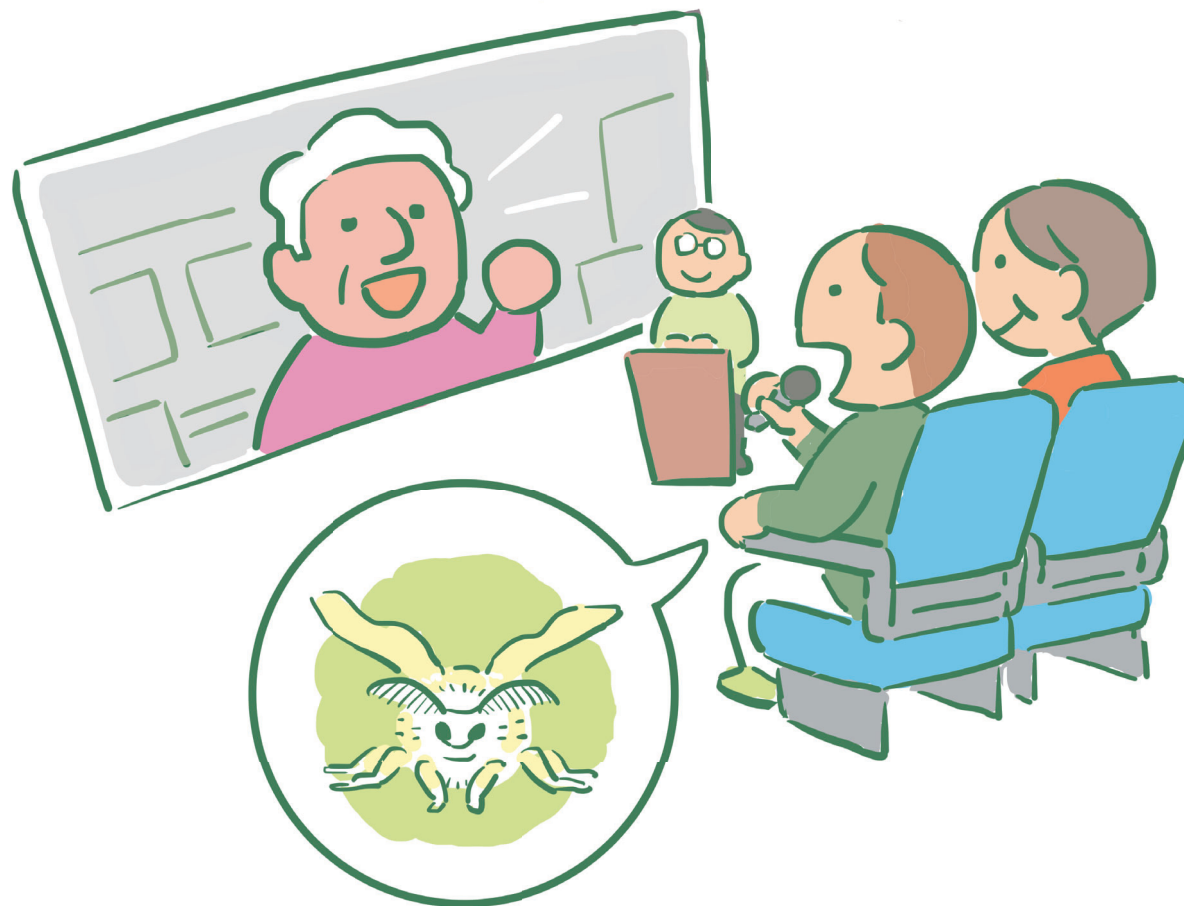
例示[※]

- 館内外の案内板等の充実、多言語化対応
- 設備整備（老朽化した設備修繕、バリアフリー化等）
- 酷暑対策のための休憩所等の設置
- 屋外の園路整備、園内移動のための電動バス運行
- Wi-Fi環境の整備

※今後、実現性を検討いたします



国内外の昆虫館博物館、民間企業等と連携し、
更なる魅力を発信します



つながりを
強化して
魅力ある
施設へ

例示^{※1}

- 国内外の昆虫館との標本等交換による交流や動画撮影
- 昆虫クラフト作家、著名な昆虫学者等とのコラボ
- 民間企業と連携した森林整備の推進
- バイオメティクス(※²)に関する講師を誘致し、授業を実施
- 寄附文化の醸成等、社会全体で施設を支える仕組みの構築

※¹ 今後、実現性を検討いたします

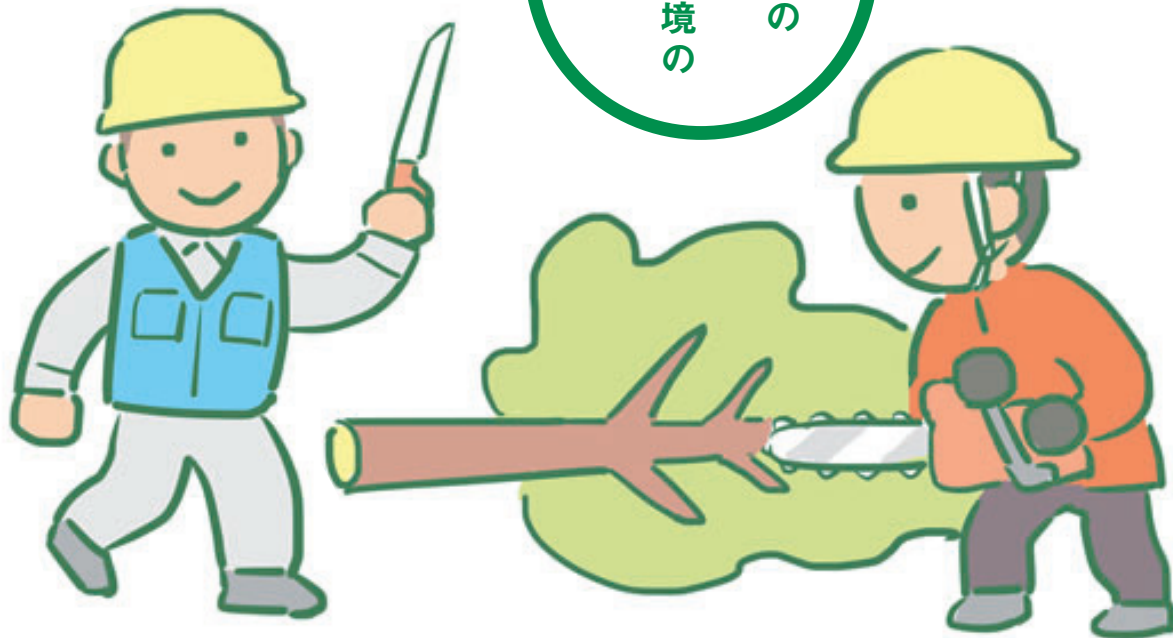
※² 生物の構造や機能を模倣して、新たな技術や製品開発に活かす学術分野

(参考)カナダ自然博物館の寄附文化醸成の取組



生物多様性・自然環境の保全に配慮します

雑木林の
整備や
生育環境の
見直し



絶滅危惧種の
生息域外保全
※
及び展示

※絶滅の危機に瀕している
生物を自然の生息地の外で保護し、
繁殖させる取り組みのこと。

例示[※]

- 林業技師による「人の手の入った雑木林」の整備
- 多種多様な昆虫の生息域を作りだす植生の見直し
- 伐採した木材の昆虫飼育の再利用
- 太陽光発電等の再生エネルギーの活用

※今後、実現性を検討いたします

方針

05

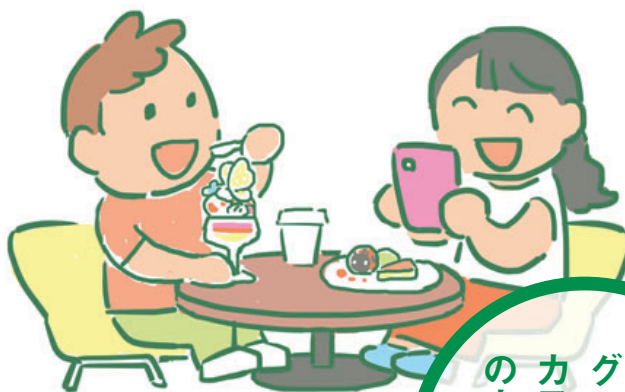


昆虫が苦手な方、大人、高齢者でも楽しめる施設にします

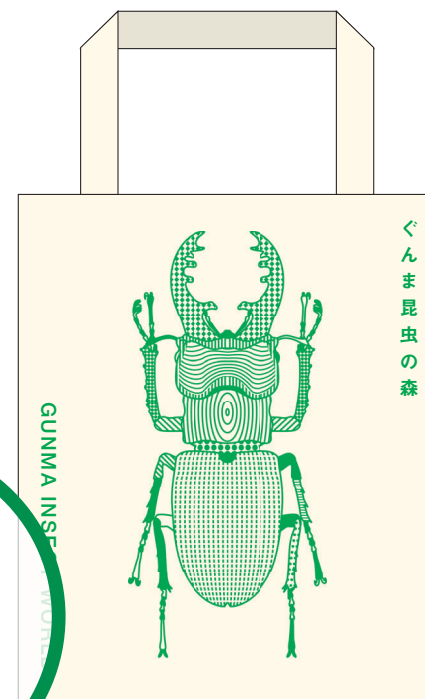
デザイン性も
重視した展示



参考：モントリオール昆虫館



ミュージアム
グッズや
カフェメニュー
の充実



image

例示[※]

- 昆虫嫌いでも楽しめる「映え」を意識した展示
- レストランで、女性向けや昆虫にちなんだメニューの導入
- 撮影した昆虫をAIで解析できる「昆虫の森アプリ」の開発
- 学校・地域のミュージカル・コーラス隊等の公演
- 雑木林エリアで、巨大迷路等のアクティビティの開催

※今後、実現性を検討いたします

2025年、ぐんま昆虫の森、開園20周年。次のみらいへ。



ぐんま昆虫の森

GUNMA INSECT WORLD